

さ ざ ん か

第 111 号、2011 年 2 月

ついこの間まで、明けましておめでとうございます、とあちこちで云っていたような気がします、もう 2 月。逃げ月の名のごとく、あっというまに終わってしまいそうです。受験生であったり、就職が決まっている人であったり、あるいは浪人暮らしを覚悟している人であったり、いずれにしろ 2 月は新しい出発のための準備の月とも言えそうです。

遠くアラブの地では大きく世の中が揺れているようです。彼の地の政変でのキーワードは若者とインターネットであるとか。若者とインターネットは今や世界中どこにでもあるのに、本当にそうなのだろうかと思ったりもします。まあ、若者は昔からどこにでもいましたから、インターネットというのがツボなののでしょうか。インターネットの中身は手軽な情報収集、情報発信ということでしょうから、結局は「知る権利」と「表現の自由」ということが大切なことなのでしょう。

独裁から民主主義へ、と云いますが、果たして一夫多妻の風土のイスラムの世界に本当の意味での民主主義がなじむのかどうかはやや疑問に思います。民主主義の基本は「個人」でしょうから、最低限として男性と女性が「個人」として対等であることが必要なのだと思います。一夫多妻制度はけっして男女が平等であるとは言えません。西洋とは異なる新しい形のイスラム民主主義ができるのでしょうか。できるとすればどういうカタチになるのでしょうか。衆愚主義よりも賢明な独裁の方が望ましい、ということはないのでしょうか。などと考えながら、全く腑抜けた我が国の政治にうんざりしつつ、かの国々の政変を眺めております。

まだまだ寒い日が続きます。どうぞお風邪などめさないように日々お過ごしください。春はもうすぐですよ。

俳句 西屋敷 喜美子

冬晴れや 集ふ数多の 高齢者

凍雲や 体調悪しき 姉の文

伊佐盆地 浴室の窓 凍てつきぬ

===== 短歌 ===== 瀬戸よし子
初産をしたるは いづこ 雪積みて 子猫の授乳に行けぬ飼猫

子をたづね鳴き廻りし猫なれど こそえ死にしか 親は炬燵に

===== 病院からのお知らせ =====

* インフルエンザのほかに、肺炎ワクチンの予防接種も行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

* 亜急性期病床は 20 床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

なお、ご参考までに、当院の一般の方の平均在院日数は 20 日前後です。

* 大分暖かくなってきましたが油断大敵、感染予防のため、訪問される方はマスク着用をお願いいたします。

* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつきり予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

* 肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、あらかじめご了承ください。

躁（そう）と鬱（うつ）を繰り返す病態を双極障害というらしい。繰り返しがなく、うつだけの病態とか躁だけの病態とかもちろんあり、それぞれうつ病、躁病とよばれる。

それは病気なのかもしれないが、躁と鬱を繰り返す双極障害と正常との区別は難しそうだ。もともと2面性というか2極性を示すことは多くの自然現象、人間の行動、社会制度などのなかでは普通である。

（昼の顔と夜の顔、暑さと寒さ、のんびりと短気、泣きと笑い、金持ちと貧乏人、美人とブス、イケメンとブ男、デブとやせっぽちなどなどね。罪と罰とか心と体とかもそうなるのかしら。権利と義務もたぶんその範疇なんでしょうね。なんだか、わけが分からなくなってきたわ。これじゃ、単なる2項羅列かしら）

心は見えない。したがって見えない心の評価をすることは難しい。仕事の際は気持ちに乗らず、遊びになると俄然元気になるのは、きわめて普通のことのように思う。併し、現実それで仕事に行けなくなった人間は心の病と診断され、病欠扱いされる場合もある。

彼のそれは怠けでも甘えでもなくれっきとした病気となる。病人を責めることはできない。甘えないで、しっかり仕事をせんか！といえ、時にはパワハラと判断され下手すれば裁判に訴えられ、裁判官はしっかりと上司に有罪を宣告する。

（そういえば、最近パワハラと何とかハラとか多くなっちゃって新聞にも書いてあったわ。単なる人間のなまけとかさぼり心と病気との区別がつかなくなってしまっているのね）

勉強嫌いで学校に行かない子供も、病気という範疇でとらえると単なるなまけによる不登校でなく心理的ケアが必要なところの病気の子供たちとなる。

子供たちは、戦うことよりも、戦いを避けることを選択することを勧められる機会が多くなっているように感じる。無理して学校に行くことはない、と教える大人が増えてきているのだろう。（登校拒否で学校に行っていない子供は2006年度で13万人いたらしいわよ。まあ、俗にいう草食系の人間が増えているのと同様関係あるかもしれないわね）

おのれの身勝手な欲望のみで、女性を犯し子供を殺しても、場合によってはそれは正常な判断が出来ない状態であり、心神喪失と判断され、しばしば、裁判で有罪にはならなかったりする。そもそも、人を殺したりするときに、正常な精神状態を失っているということは「正常」なのであり、心神喪失などではないのだ。正常な判断力とか冷静な気持ちを失っているから、人を殺すのである。それを心神喪失と称して裁判で無罪にするのは間違いである。

(人の心は見えないから、いろいろな解釈が可能になるけれど、精神疾患でも罪を償えるような形を探すべきだと思うわね。)

80歳を超えた高齢者が、施設入所中におにぎりをのどに詰まらせて、窒息した症例に3000万円の賠償命令を出す裁判官は、彼の方が心神喪失しているのではないかと思ったりもする。こういう判決は、施設の間から人間らしさを奪ってしまう。つまり、お年寄りがおにぎりを望んでも、のどに詰まらず可能性があるからおにぎりは与えず、味もそっけもない流動食とか、いつそチューブを突っ込んで人工栄養にしてしまうのだ。おいしいおにぎりを食べさせてあげたいという思いやりはそこには存在しなくなる。(行き過ぎた患者保護は、かえって患者を傷つけることになってしまうわね)

犯罪の世界の話でいえば、被害者よりも、加害者の方の人権が大切にされる傾向にある。被害者のプライバシーは丸出しで、加害者のそれはほとんど守られている場合もしばしばある。もちろん、直接関係がないはずの加害者の親が、世間に責められその責め苦に耐えきれず自ら命を絶つという辛い事実もある。一方で、被害者であることを前面に出して、過大に賠償を請求したりすることもある。

つまり、結構、世の中、双極的である。双極的であることはある意味で、自然現象に近いのだと思うが、その振れ幅が大きいことが問題となり、大きすぎると病気と呼ばれるのである。振れ幅がほとんどない場合も、たぶん病気に近い状態なのだろうがそれが表面化することは少ない。

(高血圧も低血圧も病気、高体温も低体温も病気、便秘も下痢も病気。丁度良い状態があるってことね。要はバランス。中庸でことかしら。なんとなく、メリハリにかけける感じもするなあ。)

毎朝起きた時、憂鬱な気分になることは病的ではないし、お酒を飲んでハイになって盛り上がるのも病気ではない。では、どこから、病気になるのか。朝起きた時の憂鬱さが登校拒否、入社拒否にまでなると病気と判断されやすい。でも登校拒否の子供はみんな病気なのであろうか。そもそも病気とは何なんだ。病気とは、健康でない、ということだろう。体の健康はある程度はかり知れる。心の健康はどうやってはかるのか。うつ状態測定器というものがあるとでもいうのだろうか。

精神科医がうつと診断したら鬱になり、うつじゃないと診断したら正常になるのが現状である。犯罪者の精神鑑定でまったく反対の複数の精神科医の診断ができることがあるが、それはそもそも、全く反対の判定ができるくらいあいまいでいい加減ということをしめしている。

目に見えるものは、黒は誰が見ても黒であり、白は誰が見ても白である。目に見えないものを判断する裁判官とか精神科医は、すべて信頼に値する人間ばかりであれば、もちろん彼らの裁定に重きをおいても良いであろう。しかし、現実はどうか。世の中の裁判官と精神科医はすべてが立派な人間であろうか。目に見えない人の心までみて、有罪だとか無罪だとか、病気だとか病気がないとか、しっかりと判断してくれているのだろうか。

答えはノーだ。そもそもミスをしない人間はいないのだ。人間はミスをするものである。(どちらかという、裁判官も医者も世間知らずの人が多くなってイメージがあるものね。単に受験勉強ができたに過ぎない人たちが偉そうにしているのだわ。これって、言いすぎ?)

こころの問題は難しい。デリケートであり、人権意識が異常に強い現代ではある意味、触れたくない問題である。下手するとマスコミの格好の餌食なるだけだ。

登校拒否や出社拒否や、学業拒否、労働拒否を『根性』の問題にするには相当勇気がいる。「負けるな、なまけるな、ここで踏ん張れ、逃げるな。根性を出して乗り切れ。死ぬ気でやれ。」と、他人に言うのは大変なことなのだ。

前に進めないことを、根性の問題でとらえることと、心の病気にしてしまうことと、どちらが彼の、彼女のためになるのであろうか。中庸の立場からいうと、双方の面からのアプローチが必要ということになるであろう。

今月の結論：中庸という古くからあるテーマが今もっとも求められている姿勢である。やはり、孔子はえらかった。

編集後記

世の中、一寸先は闇とか言いますが、イスラム世界での反政府運動は予想外に激しいものでした。しかし、実はキチンとイスラム世界の現状を分析していた人にとっては、予想外でも何でもなく想定内の出来事だったのかもしれませんが。無知な人間が勝手に「予想外」と云っているだけのような気がします。いつの時代にも、「無知」は怖いし、そして強い。(KT)